

令和3年度つくば市学校給食の在り方懇談会活動報告書

1 活動目的・背景

従来、つくば市における学校給食運営上の重要事項については、教育委員会の附属機関である「つくば市立学校給食センター運営審議会」で審議を行ってきた。

しかし、学校給食の基本的な在り方について、自由な意見を聴取、交換する場がなかった。

そのため、本懇談会は、学校給食に係る施設整備や学校給食の課題と方向性について、今後のつくば市の学校給食の基本的な在り方を検討する際の参考とするため、懇談及び意見交換を行うことを目的としている。

2 懇談会構成員

| 区 分 | 所属・役職 | 委員指名 |
|-------------------|----------------------------|--------|
| 市議会議員 | つくば市議会 | 木村 清隆 |
| 地方行政機関及び公共的団体の役職員 | J Aつくば営農部長 | 根本 俊明 |
| | J Aつくば市谷田部営農部長 | 横山 治夫 |
| 学識経験者 | つくば市栄養士部会部長 | 吉田 佳代子 |
| | つくば市学校給食会給食主任代表 | 井坂 薫 |
| | つくば市食生活改善推進員協議会会長 | 森田 佳子 |
| 学校教育関係者 | つくば市校長会会長 | 岡野 光浩 |
| | つくば市学校給食会会長 | 玉田 晴美 |
| | つくば市幼稚園会会長 | 藤 照子 |
| 学校給食運営に関わる市職員 | つくば市教育局長 | 吉沼 正美 |
| | つくば市財務部長 | 中島 弘志 |
| | つくば市経済部長 | 野澤 政章 |
| | つくば市給食センター代表所長 | 石塚 英樹 |
| 市民 | つくば市P T A連絡協議会会長又は会長が指名する者 | 猪野 研一 |
| | 市民公募(市内学校等に通う子の保護者) | 金子 朋子 |
| | 市民公募(市内学校等に通う子の保護者) | 金田一 裕穂 |
| | 市民公募 | 秋元 波 |
| | 市民公募 | 河口 宗央 |
| | 市民公募 | 中右 皓暁 |

3 活動内容

(1) 第1回

令和3年9月24日(木) 14:00~16:00 庁舎201会議室

自己紹介

事務局説明

- ・本懇談会について
- ・つくば市学校給食の現状と課題

意見交換

(2) 第2回

令和3年11月5日(金) 13:30~15:30 庁舎201会議室

事務局説明

- ・つくば市の給食費について
- ・給食センター整備事業の経緯

意見交換

- ・理想の給食について

(3) 第3回

令和3年12月24日(金) 9:00~11:15 ほがらか給食センター谷田部研修室

施設見学

意見交換

試食

(4) 第4回

令和4年1月28日(金) 10:00~12:00 庁舎204会議室

事務局説明

- ・学校給食調理場報告について
- ・令和3年度学給食の在り方懇談会活動報告(案)について

意見交換

(5) 第5回

令和4年3月16日(水) 10:00~12:00 庁舎防災会議室

事務局説明

- ・令和3年度学給食の在り方懇談会活動報告(案)について

意見交換

4 委員からの意見

(1) 地産地消の推進について

- ・食数に対応できる生産者が少ないため、生産者との連携を強化して、納入の仕組みを検討していくべきである。
- ・栄養士と生産者、そしてその間に入る農協関係者と、つくば市の健康教育課が密に連携することによって、関係性を築いていくことが重要である。
- ・なぜ地産地消を推進しなければならないのか、という目的の明確化が必要

である。

- ・学校給食で地産地消を推進することは、地域教育の一環であり、地元への愛着を育むことを目的として推進していくべきである。
- ・すべてを市内産で賄うためには、価格、生産量等課題があるため、継続して検討していくべきである。
- ・新しい就農者と学校給食への食材提供という事業モデルがうまくかみ合うことによって、農業振興と地産地消が、共に良い方向へ進むよう、つくば市のサポートが期待される。
- ・入札制度が、地場産物の納入を阻んでいると考える。地産地消率向上のためには、地産地消枠を設けるなどの、新たな取り組みが必要である。
- ・給食食材を納入している農業従事者との、意見交換の場を設けるとよい。
- ・地産地消の号令だけが先行しているが、実際は推進されるどころか後退しているのが現状である。
- ・経済性の観点だけでは地産地消の推進は難しいため、食農教育や生産地見学などを通して相互理解を深めていくことが重要である。

(2) 施設整備について

- ・センター方式、自校方式ともに、メリット・デメリットがあることから、今後も比較しながら検討し、施設整備を進めていくべきである。
- ・自校方式で、つくば市産食材のみを使用した給食の提供というモデルを示す試みがあれば面白いと思う。
- ・自校方式の給食施設整備が望まれる。
- ・施設整備に活用する財源を給食の内容に活用する方法もあったのではないかと疑問に思う。
- ・自校方式よりセンター方式のほうが、児童生徒数の増減に対して柔軟に対応できると考える。
- ・自校方式は配送時間が不要なため、調理時間を長く確保することができ、加工品の使用量を減らし添加物が少なく温かい食事が提供できる。健康面、美味しさの面から自校方式の給食を強く望む。まずは、1校、2校で始めて欲しい。
- ・新センター建設に関する周知が足りないと感じる。
- ・大規模センター方式か自校方式かの二択ではなく、小規模なセンターについても選択肢に含め、検討していくべきである。
- ・自校方式の方が、各校の実状に応じたアレルギー食の対応、児童生徒の年齢・発達段階に合わせた味つけ（味の濃さ）や調理方法、校内で栽培した野菜を取り入れる、リクエスト給食や誕生日給食、季節行事に応じた給食の提供など、子どもの参加を可能にし、かつきめ細やかな給食運営をおこ

なうことができる。

- ・公共施設の整備費については、将来大人になる子どもたちが負担していくことになる。自校方式の給食施設を整備した場合、将来児童生徒数が減ったときに、整備費が無駄になってしまう。将来税金を納める身として（※発言委員年齢17歳）、お金が無駄にならない方法にしてほしい。

(3) 食育等について

- ・和食の積極的な活用を望む。
- ・パンの日のボリュームが少ないため、献立について検討してほしい。
- ・つくば市の給食は加工品が多いと感じるので、使用を控えるべきだと思う。
- ・地元の生産者とのつながりの強化、食育の充実、フードロスの削減、子どもたちの健康の推進等を図ることが、理想的な給食につながる。
- ・子どもたちには、つくば市に愛着を持ってほしいと強く思っている。体験型給食及び食育の推進が望ましい。
- ・みんなで食べる学校給食（食物アレルギーや宗教等の理由で、普段給食を食べることができない児童生徒も食べられる食材を使用した給食）の取り組みが素晴らしく、事業の拡大が望まれる。
- ・パンと麺が同日に提供されることがあるので、同日提供をしないよう改善が望まれる。
- ・給食の食べ残しの量等を、子どもたちに伝えることによって、食べ残し削減を図る食育が必要である。
- ・保護者一般に向けた給食PRにより、学校給食への理解を深めることが望まれる。

5 成果

令和3年度は、5回の懇談会を開催し、広く意見を聴取することができた。その中でも、第3回懇談会については、つくばほがらか給食センター谷田部で開催し、意見交換の前後に施設見学や、給食試食の時間を設けることで、懇談会構成員の学校給食への理解を深めることができた。

公募により選考された市民構成員については、市内小学校に在学する児童の保護者、市内で農業を営んでいらっしゃる生産者、市内でパンを製造、販売し、日々食と向き合っている方、2年前までつくば市の学校給食を食べていた高校生等、様々な分野で御活躍の方々にお集まりいただき、幅広い意見を提出いただいた。

さらに、従来、担当課とは各々接点がありながらも一堂に会することのなかった、生産者、学識経験者、学校教育関係者並びに庁内関係部署職員が参集することで、多面的に懇談することができた。

また、懇談会での意見を参考とし、教育局が実施した情報発信の強化や、地産地消推進のための農協及び生産者との意見交換、自校式給食施設視察等の実現は、本懇談会の大きな成果とすることができる。

6 所見

テーマを限定することなく開始した本懇談会であったが、回を重ねる中で、学校給食における地産地消推進に関する事、学校給食施設整備に関する事並びに食育の推進に関する事の概ね3つに、論点が絞られた。

学校給食に求められる在り方について交わされた意見については、今後の学校給食運営の参考としていくとともに、こうした自由な意見を交換する場を通して、上述の3つの論点をより深く話し合っていくことが重要である。

7 今後の予定

本懇談会の開催期間は、令和3年9月1日からおおむね2年間であるため、令和4年度も適時に懇談会を開催し、今年度意見交換された内容を掘り下げていく予定である。

市民構成員の任期は、令和3年度末までであるが、再任を妨げない規定となっているため、各構成員の意向に基づき、継続して出席いただける方については、引き続き出席を依頼する。欠員となった場合は、再度公募の上選考を実施する。